

賃 金， 物 価， 家 計

賃 金 賃金を毎月勤労統計調査による昭和34年の本県労働者の月間平均給与は、経済の好況を反映し全産業で21 089円と、前年に比し10%の上昇をみせた。男女別にみると、男24 938円、女10 645円とかなりの格差があり年々その差は大きくなっている。これは女子の勤務年限の短かいこともあるが本質的には労働力差によるものと思われる。

産業別にみると、金融、保険業、が最も高く、運輸通信その他公益事業、鉄鋼業の順となり、最低は木材、木製品製造業であるが、いづれも業種及び企業の大小によりかなりのひらきがある。

物 価 千葉市の消費者物価数（30年＝100）でみると、34年は前年に比し0.9%上昇した。これを費目別にみると、主食と住居費、雑費が上つて、被服費、光熱費が下つている。

なお、34年の小売物価地域差指数を全都市＝100としたものでみると、総合で0.2下つているが、食料は1.2高くなつており、東京＝100としてみると両者とも低い。

家 計 千葉市勤労者世帯の一世帯当りの収入、支出額では実収入37 413円、実支出34 206円、差引3 207円の黒字となつている。また全世帯の一カ月平均均消費支出は昭和30年23 454円、31年23 310円、32年23 524円、33年26 707円、34年29 466円と上昇している。なお、消費支出の飲食費の占める割合（エンゲル係数）は30年45.3%、31年、45.7%、33年44.2%と徐々に下り、反面住居費や雑費の占める割合が多くなり、都市の生活程度が少しづつ向上していることがわかる。